

施策評価シート

施策等名称	尖石縄文考古館の充実	体系番号	0201020104
		主管課	文化財課

1 施策基本情報

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域を取り巻く社会環境は、急激な変化を遂げており、市民の学習要求の多様化・高度化に対応し、様々な地域課題や生活課題を解決するために、社会教育の重要性は高まっている。</li> <li>・更なる学習の充実を進め、「ひとづくり」を積極的に推進するとともに、地域・学校・行政の連携による推進体制の整備が望まれている。</li> <li>・学習ニーズを的確に把握し、市民の生涯にわたる自主的な学習活動が活性化するよう、様々な学習機会の提供や内容の充実、推進体制の整備が求められている。</li> </ul>
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	市内の考古学資料の収集・保存・調査研究の成果を展示・教育普及活動に活かし、縄文を意識したまちづくり・人づくりの基盤を整備し、後世に伝え引き継ぐことを目指す。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値
				2027年度目標値
①	年間入館者数	年間入館者数(人)	53,824	60,000 70,000
②				
③				

施策の柱	名称	尖石縄文考古館の充実		主管課	文化財課		
	詳細	茅野市の縄文文化・史跡を知る中核的な施設として、研究者はもとより、幅広い層の方々が訪れる館を目指す。また、地域住民の学習支援や考古館活動への参加を支援する「参加・体験型」の施設を目指す。国宝「土偶」をはじめとする縄文遺産の常設展示、特定のテーマによる企画展示、特別史跡尖石遺跡の活用を目的とする史跡整備及び市内出土資料の修復等の資料整備、縄文教室や縄文ゼミナール等の講座、縄文文化研究に功績のあった業績を表彰する縄文文化賞により、実現していく。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	年間入館者数	年間入館者数(人)	53,824	60,000 70,000	1 考古館運営事業	実施
					2 考古館施設管理事業	実施	
	2				3 資料整備事業	実施	
					4 縄文教室事業	実施	
	3				5 特別展事業	実施	
					6 尖石縄文文化賞事業	実施	
	基本政策間連携						
	施策の体系	名称			主管課		
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1				1	
						2	
2					3		
					4		
3					5		
					6		
基本政策間連携							
施策の柱		名称			主管課		
		詳細					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1				1	
						2	
	2				3		
					4		
	3				5		
					6		
	基本政策間連携						

施策等名称	尖石縄文考古館の充実	体系番号	0201020104
		主管課	文化財課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	年間入館者数	53,824	56,953	54,434			
		1	60,000	94.92	90.72	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	前々年度比では3000人増であるが、前年度は八ヶ岳JOMONライフフェスティバル期間無料入館のため6000人ほど減少した。					
	2019年度	計画策定時の数値は上回っているが、台風の影響等により前年度比では2500人の減少となった。					
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
柱1	年間入館者数	53,824	56,953	54,434			
1		60,000	94.92	90.72	0.00	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	前々年度比では3000人増であるが、前年度は八ヶ岳JOMONライフフェスティバル期間無料入館のため6000人ほど減少した。					
	2019年度	計画策定時の数値は上回っているが、台風の影響等により前年度比では2500人の減少となった。					
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						
			#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
変動要因等	2018年度						
	2019年度						
	2020年度						
	2021年度						
	2022年度						

施策等名称	尖石縄文考古館の充実	体系番号	0201020104
		主管課	文化財課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		
投資額	事業費(円)	82,498,252		79,502,283	0.96	75,233,000	0.95					
	うち一財(円)	61,162,438		61,496,675	1.01	57,205,000	0.93					
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合に 記載)											
進捗評価		おおむね順調		おおむね順調								
総合評価	主な取組内容や成果	夏休み期間や大型連休中の臨時閉館を含み年間310日開館、無料開館8日、企画展2回、来館者が参加できるイベント＝縄文教室10回、縄文ゼミナール7回、「識る」部会事業関連イベント2回を開催した。国宝「土偶」や長野県宝の観覧とボランティアの解説や各種イベントは好評を博した。		臨時閉館5日を含む年間311日開館、無料開館日6日、企画展1回、縄文教室9回、縄文ゼミナール5回、「識る」部会事業関連イベント2回を開催した。それぞれの参加者は定員の70～100%であった。また、国宝「土偶」等の解説対応は237回実施し、好評だった。								
	課題	各種イベントや企画展・特別展は好評ではあるが、年間の入館者数に直接的かつ劇的に効果が出ているわけではない。また、市民向けのイベントとオープン参加イベントに参加者数の差があり、参加要件の設定に課題がある。		各種イベントや企画展は好評を博したが、入館者数の増加に劇的に効果を出していない。イベントについても、昨年同様で、「市民向け」と「オープン参加」といった参加条件や、イベント内容で申込数や参加者数に差が出ている。								
改革・改善	改革・改善内容	入館者数のさらなる増加のため、①展示資料及び展示パネルの内容の再検討とそれに基づく変更、②企画展と連動したゼミナールや「識る」部会事業の実施、③縄文文化に関心のある層への広告戦略(「縄文ZINE」への広告掲載等)、等を進める。		常設展示のパネルの内容の再検討は、入館者から受けた質問内容等も含めて引き続き進めていく。企画展とゼミナール等講座の連動にも取り組む。 なお、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今後はホームページに「館内ツアー」のような内容を掲載すべきかもしれない。								
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1	1								
		重点事務事業	1	1								
理由	当館の入館者の来訪理由は国宝「土偶」を目的とした観覧であり、そのニーズに応えるためにも当館の十分な運営がまずもって必要となる。それが茅野市の縄文文化遺産の保全と教育普及にもつながる土台になると考える。		当館の入館者数の訪問理由は、国宝「土偶」の観覧であり、そのためにも施設の十分な管理と運営がまず必要である。加えて国宝「土偶」及び茅野市の縄文文化の価値をわかりやすく魅力的に伝えるイベント等の開催も重点的に取り組む必要がある。									

作成担当者	山科 哲	山科 哲			
最終評価責任者	平出信次	北沢政英			
最終評価年月日	2019年5月31日	2020年7月10日			